

答え合わせ・解説 No.1

問1	答え 1 井戸	地下水をくみ上げて生活に利用するための施設を井戸と呼びます。昔は水道が通っていなかったため、家の人が井戸から直接水をくみ上げることが、毎日の生活に欠かせない仕事でした。
問2	答え 4 敵から身を守り、周りの様子をいち早く知るため	城は地域の安全を守るための拠点でした。周りを見渡せる高い場所や、攻めにくい場所に建てることで、外からの攻撃に備え、地域の支配や管理をスムーズに行う役割がありました。
問3	答え 2 城	城は、昔の地域の中心的な施設として、防衛や統治のために建てられました。博物館は歴史的な資料などを展示・保存する場所であり、城の役割とは異なります。
問4	答え 2 出来事の前後関係を知ること、社会の変化を理解できるから	歴史は、ある出来事がきっかけとなって次の出来事がおきることが多いため、順番がとても重要です。年号順に並べることで、社会がどのように進歩したり変化したりしたのかという「歴史の流れ」を時間軸で見ることができます。
問5	答え 4 地面の下にある地下水を、生活のために使う必要があったから	昔は今のように蛇口をひねれば水が出る水道が整っていませんでした。そのため、生活に必要な水を得るために、地面の下にある地下水を井戸からくみ上げる必要がありました。
問6	答え 3 令和時代	歴史の出来事は、年号によって順番が決まっています。明治、大正、昭和、平成の次に、現在は令和という時代になっています。それぞれの時代がどの順番で並んでいるかを知るとは、歴史の流れを正しく理解するためにとっても大切です。
問7	答え 3 たらい	昔のせんとくでは、水をためるための「たらい」にせんとく物を入れ、その中でせつけんをぬりつけて、せんとく板にこすりつけていました。井戸からくみ上げた水をたらいに入れ、手作業で一せけん命によごれを落としていたのです。
問8	答え 3 城跡	城がその場所に建っていたという歴史的な事実は重要であり、建物が残ってなくても「城跡」として保存されることで、地域の歴史を今に伝えています。
問9	答え 3 古い町並み	古い町並みとは、昔の建築物や街の構成が今も大切に守られている場所のことを指します。こうした場所は、その地域で昔どのような人々の暮らしが営まれていたかを知るための大切な手がかりとなります。
問10	答え 4 電気を使わないので、薪や炭を燃やす火の扱いの工夫	昔は電気やガスがなかったため、薪（まき）や炭を燃料として火をおこす必要がありました。そのため、火を安定させるには、空気の通り道を考えたり、火の強さをこまめに調整したりするという、使い手ならではのこつや工夫が必要だったのです。
問11	答え 3 街の歴史や人々の暮らしの移り変わりを知るため	古い町並みを調べることは、単に古い家を見るだけでなく、昔の人々がどのような工夫をして暮らしていたのか、街がどのように発展してきたのかという歴史を学ぶためにとっても役立ちます。
問12	答え 4 水くみからしぼりまで、すべて人の手と力が必要だったから	昔のせんとくは、井戸から水をくんでたらいにためたり、せんとく板に強くこすりつけたり、最後は手でしぼったりと、とても時間と体力がかかる仕事でした。今のせんとく機は、スイッチを押すだけで洗ってすすぎ、しぼりまでしてくれるので、くらしが大きく便利になったことがわかります。
問13	答え 1 自然素材を使い、手作業で使う道具が多い	昔の道具は、木や土、石などの自然素材が多く使われていました。現代の家電製品のように電気やスイッチ一つで動くものではなく、人が手作業で動かしたり、火の加減を調整したりして使う必要がありました。